

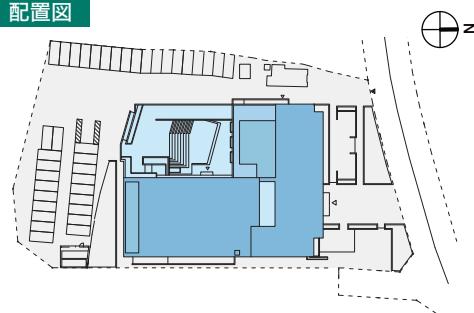


(株)久慈設計 東京支社(横浜事務所)  
参事兼横浜事務所長

堺市民センターは、1983年の建替え以来、40年以上市民の活動や生活を支える地域コミュニティの拠点施設として運営されてきました。工事中は、利用される市民の方々の、施設に対する愛着や期待を肌で感じることができ、その施設のリニューアルの仕事に携われたことに誇りを持つと同時に、責任も感じる仕事となりました。この施設がこれからも、地域の方々に永く利用され、市民生活を支える施設で有り続けることを願っております。

一級建築士  
小川 直樹

## 配置図



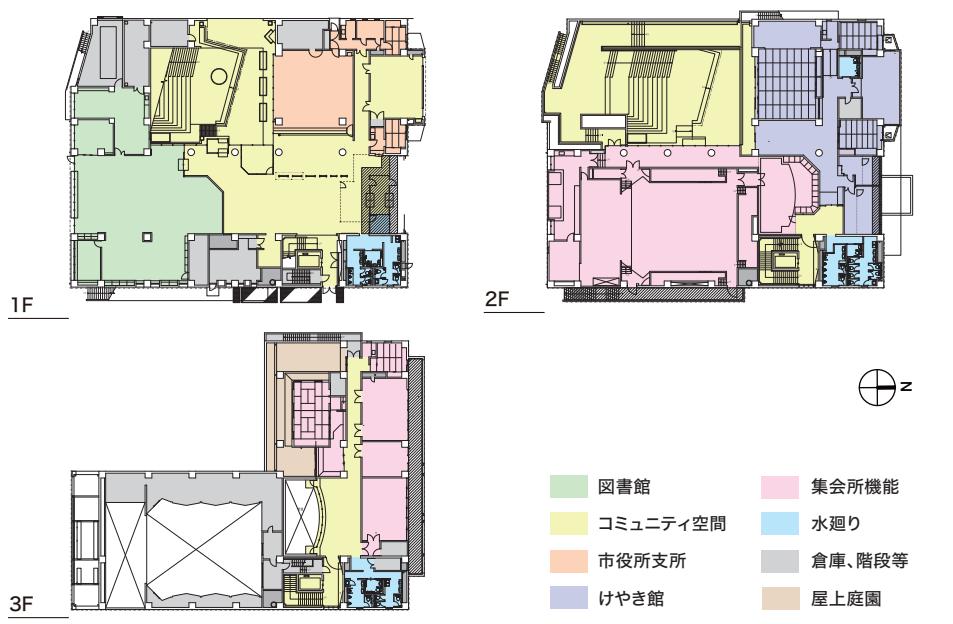
## 町田市堺市民センター(行政窓口)

- 窓口受付時間  
午前8時30分から午後5時
- 休業日  
土曜日、第1・第3・第5日曜日、祝日、  
12月29日から1月3日
- 日曜窓口  
第2・第4日曜日  
※システムメンテナンスなどで日曜窓口を実施しない場合があります
- 問い合わせ先  
<https://www.city.machida.tokyo.jp/kurashi/touroku/shisetsu/05/index.html>



詳細はこちら

## 平面図



# Always with a SMILE!®

2026  
2月号  
Vol.251

## — 地域活動を支える拠点として — 町田市堺市民センター 改修工事設計監理業務

## 特 集





## 町田市堺市民センター改修工事設計監理業務

- 施工地／東京都町田市相原町795番地1
- 竣工年月／令和7年11月
- 敷地面積／2,654.23m<sup>2</sup>
- 延床面積／2,863.28m<sup>2</sup>
- 構造／鉄骨鉄筋コンクリート造 3階建
- 駐車場／一般用 34台  
思いやり駐車区画・障がい者駐車区画 4台



### 地域の活動を支えるために

東京都の最南端(島しょ部を除く)に位置する町田市は、都内では東京23区、八王子市に次いで3番目に人口が多く、東京都のベッドタウンとしても知られています。都心からのアクセスの利便性がありながら、周辺には緑地や農地も広がり自然を感じられる環境が、若いファミリー層からの人気が高いエリアです。大学や専門学校なども多く点在し、自然と都市機能が共存する、暮らしやすさが魅力の地域です。

1983年の建替え以降、40年以上が経過する堀市民センターは図書館などの公共施設が地域の中心的な役割を担い、行政サービスの提供に加え、市民活動や文化・学習の場として幅広く利用されています。この度施設の老朽化に伴い改修工事事業に久慈設計が参画をさせていただきました。



施設外壁(外壁改修工事)

施設外観(南側)

コミュニティーロビー 1階



カーテンウォール(改修後)



開放的なホール(カーテンウォール側)

### 快適な施設づくり

本改修は、長年地域に親しまれてきた堀市民センターの外観意匠を継承しつつ、建物性能の向上を図ることを主眼としました。主要なカーテンウォールは、従来の印象を大きく変えることなく、耐久性・防水性に優れたアルミ製へ更新し、既存建築の表情を保ちながら外装性能の改善を実現しています。周辺街区との調和にも配慮し、落ち着きのある佇まいを維持しました。

内観計画では、市民センターや図書館、けやき館といった複合機能の特性を踏まえ、従前の利用勝手を極力変えないことを基本としました。居ながら改修であることから、工区分けや仮設計画を綿密に検討し、利用者動線と工事動線を明確に分離することで、車椅子利用者の方も含め、安全性と利便性を確保しました。窓口カウンターは更新し、**バリアフリー**に配慮した寸法・構成とすることで、利用者・職員双方に使いやすい空間としています。

設備面では、照明のLED化をはじめ、更新時期を迎えていた設備機器の段階的な更新を行い、省エネルギー化と信頼性の向上を図りました。既存設備との整合性や工事期間中の施設運営への影響を考慮しながら計画を進め、今後も安定して利用できる建築環境の整備を実現しています。



ホール(LED改修)

窓口カウンター 1階



BEFORE

バリアフリー化



AFTER

### 設計のポイント



#### 町田市が取組むバリアフリー化とは？

ユニバーサルデザインは、年齢や能力を問わず誰もが自然に使えることを前提に計画段階から組み込む設計なのに対し、バリアフリーは、既存の不便や障がいを後から解消する設計対策であり、改修設計では大切なコンセプトの一つです。

町田市では、「町田市福祉のまちづくり総合推進条例」を定め取り組みをしています。

